

子ども医療費小学生まで

来年度から無料化、中学は入院のみ

市議会9月定例会の議案に「子ども医療費」助成の改正案が提出されます。内容は、これまで「小学校就学前まで」無料化になっていたのを、「小学校卒業まで」に引き上げます（12年4月から）。また、「中学校卒業まで」の入院についても無料化になります（12年1月から）。中学生に対象を広げるので、事業の用語も、「乳幼児等の医療費」から「子どもの医療費」に変更されます。

共産党市議団は4月の選挙で、「中学校までの医療費無料化」を公約として出し、さる6月議会で森川議員が、その実施を末松市長に求めてきました。末松市長は「なるべく早い時期に」行いたいと答弁し、今回の議案提出となったものです。子育て中の若い世帯にとって、お金の心配なく安心して医者にかかれることになり、一歩前進です。

中学生の通院も対象にし、窓口無料にすべき

三重県の鈴木知事も、近いうちに小学生までの無料化を検討しているとのことですが、そうすると先行して始める鈴鹿市の財政負担増は、県が制度化する時点から半分になります。それなら、その財政的余裕は、中学生の通院にまで無料を広げるほうに使うべきです。中学生の時期は、体もしっかりきていていちばん医療費が要らない時期と言われていますから、財政的にもたいした負担にはなりません。

また、子ども医療費をいったん窓口で払って、あとで手続きして戻ってくるという、面倒な方式をとっているのは、東海では三重県だけです。財布の中を気にせずに医者にかかれる「窓口無料」にするべきです。このような改善を、引き続いて提案していきます。

長崎の原水禁世界大会に参加して

8月7～9日に長崎市で開かれた原水爆禁止世界大会に、三重県代表団の一員として参加してきました。今年は福島原発事故を受けて、「放射能から命と健康を守る」課題が鮮明に出されて、盛り上がった大会になりました。全体会場には全国から約8千人が集まり、諸外国の政府や運動団体の代表も多数、また若者がたいへん多く参加していました。

全体集会では国連の軍縮問題責任者や田上長崎市長があいさつに立ち、「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ」を訴えました。

ヒバクシャは日本だけではない！驚くべき事実

分科会で、新たな事実を知りました。核兵器の製造や実験によって、多くの地元住民が放射能の被害にあっていること、しかも1940年代から今も続いていること、「ヒバクシャ」は広島、長崎だけでなく、アメリカ、ロシア、ポリネシアなどで深刻な被害を出していることなどです。



アメリカ・ワシントン州・ハン

告発するトム・ベイリー氏とミーリヤ・カビロワさん

フォードから来たトム・ベイリー氏は、長崎に落とされた原爆を製造したハンフォードの工場で、1940年代に重大な事故があり、40万人が放射能汚染の被害にあったと告発しました。

ロシア・チェリャビンスクから来たミーリヤ・カビロワさんは、チェルノブイリよりもずっと前の1945年に、プルトニウム製造工場の3回の事故により、48万人もの住民が被曝し、彼女の7人の子どものうち、甲状腺異常2人、遺伝子異常2人、そして2人が死亡したことを報告しました。

アメリカでもロシアでも、こんな重大な事故が公にされていないことに、おどろきました。他にも核実験が繰り返されたマーシャル諸島、ムルロア環礁からの代表の証言があり、放射能の犠牲者が多くいることを知りました。

いまや原爆と原発は同じ危険なものであること、いちど事故を起こしたら取り返しがつかないものであることは、世界の共通認識になりつつあります。

「フクシマ」をかかえる日本の責任は、重大です。

市土地開発公社の保有地110億円

鈴鹿市土地開発公社には、10年以上も利用されることなく保有している土地が多くあります。面積合計はおよそ37ヘクタール、価格は約110億円、その費用はすべて金融機関などの借り入れです。バブル崩壊以後の土地の値下がりにより、実勢価格が半分以下になった土地も多く、その差額（含み損）が大きくふくらんでいると考えられます。これは市の「隠れた借金」ということになります。つまり、市の借金は、一般会計、特別会計に、この「隠れ借金」を足さないといけません。

種別	件数	面積	価格
公有用地	32	21 ^{ヘクタール}	74億2655万円
代替地等	41	6.8 ^{ヘクタール}	11億9193万円
工業団地	1	9.1 ^{ヘクタール}	22億8807万円
合計	74	36.9 ^{ヘクタール}	109億655万円

この表は、平成22年度決算の数字です。

「公有用地」というのは、いちおう学校建設用地とか道路用地とか目的がついていたが、いつまでたっても事業化されていない土地が

多くあります。「代替地」というのは、事業にともない代わりに提供する予定だったが、不要になった土地が多くあります。「工業団地」は、伊船工業団地に企業が進出したが、用地は買わずに借地のままになっています。

これらの価格はほとんどが、取得時の高い値段で、いま処分しようとするれば、実勢価格は半値以下になると考えられます。しかし、いつまでも先送りしていても管理費と利息が増えるだけで、早く解決しなければなりません。使える土地はきちんと計画を立てて使う、見通しのない土地は払い下げる、そして損失分は市が補填する、という姿勢が求められます。

介護施設で歌のボランティアを体験

26日、老人介護施設「たんぽぽ」に、ギターを持って歌のボランティアに行きました。デイサービスの利用者の皆さんと、なつかしい歌をいっしょに歌えばいいか、という安直な気分で始めましたが、「健常者」とは盛り上がり方もスピードも違うので、緊張して汗をかきました。とても長い45分で、演説会よりも大変でした。こんどはしっかり練習してから、またお邪魔したいと思います。

ずいそう



「空気」の発見

福島原発の事故とその後の放射能汚染の広がりを経験して、私たちは大事なことを知らされていなかった、理解していなかったことを、身にしみて感じている。「安全神話」は信用できないとは知っていたが、その神話が崩れたときにどんな事態が起こるのか、までは十分には分かっていなかった。

科学者の三宅泰雄氏（故人）が、昭和37年に出した「空気の発見」という本が、角川文庫から再版されている。中学生あたりを対象とした科学の入門書であるが、三宅氏はその中で「科学的精神」の大切さを力説している。

ガリレオたちの科学的精神を現代に受け継ごう

昔の人は、空気には重さはない、たましいのようなものだと考えていた。ガリレオは、そこに疑いを持って、自分ではかりを使って測定し、空気には重さがあることを証明した。さらに弟子のトリチェリーやパスカルの実験によって、大気が大きい重さをもって私たちの頭の上を押さえつけていること、また空気のない場所「真空」ができることを証明した。その後もプリーストリ、シェーレが酸素を発見、ラヴォアジエが水は水素の酸化物であると証明するなど、人間は科学的な認識を一步步前進させていった。こうしてガリレオの「空気の発見」から250年かけて、世界を作る物質が109の元素からできていることなどが解明されていった。

三宅氏はこう言っている。「みなさん、こういうことは昔のことで、今はそんなことはない、などと考えるはなりません。いつの時代にも、このような不合理なことが、多くの人々によって、しかも、えらいといわれる人から教え込まれ、信じられているのです。私たちはガリレオやコペルニクスのこの不屈の精神をうけついで、このような不合理なことに対し、あくまでたたかい、何よりも、正しいことを人々につたえる人にならなければなりません。」

「科学的精神と言うのは、自分の納得できないことは、どんなにえらい人が言ったことでも、千人、万人が昔から信じていることでも、あるいはそれに反対したために牢屋に入れられようとも・自分の考えが正しいと実証したことを、何よりも大切にすることです。」50年前に三宅氏が主張したことを、現代の私たちはしっかりと受け継いでいかねばならない。